

きょうだいとの比較による劣性認知が 劣等感を媒介して精神的健康に及ぼす影響

—自己および養育者の重要領域からの検討—

姜 信善¹・太田 華帆里²

Effects of Cognition of Inferiority by Comparing with Sibling on Mental Health Through Inferiority Complex

—Review from the Important Areas of Self and Caregiver—

Sinsun KANG and Kahori OTA

E-mail: tokakoka1405@gmail.com

【摘要】

本研究の目的は、きょうだいとの比較による劣性認知が、劣等感や精神的健康に与える影響について明らかにすることであった。劣性の認知について調べるために、①自分が重要としている自己の領域（以下、自己重要領域とする）②養育者にとっての重要領域③自分と養育者にとっての重要領域④自分と養育者ともに重視しない領域の4領域について、きょうだいと比較して認知した劣性をどれだけ重要視しているか尋ねた。「きょうだいとの比較による劣性認知→劣等感→精神的健康」のモデルを検討するために共分散構造分析を行った結果、自己重要領域および自分と養育者ともに重視する領域においてきょうだいと比較して劣性を認知した場合、きょうだいとの比較による劣性認知は劣等感を高め精神的健康を阻害することが示された。一方で、養育者の重要領域および自分と養育者ともに重視しない領域においてきょうだいと比較して劣性を認知した場合、きょうだいとの比較による劣性認知から劣等感や精神的健康への有意な影響は示されなかった。

キーワード：きょうだい, 劣性認知, 劣等感, 自己重要領域, 精神的健康

Keywords : Sibling, Cognition of Inferiority, Inferiority Complex, Important Areas of Self, Mental Health

問題と目的

劣等感とは、何らかの劣性を認知した時に生じる否定感情の総称である（高坂, 2008a）。しかし、劣性と決めた対象を価値的に高いものだと評価しなければ、その対象に対して劣性を認知しても劣等感を強く感じるには至らない（武田, 1962）。このことについて、劣性の認知と劣等感との関連を検討した高坂（2008a）によると、自己重要領域における劣性の認知が劣等感につながるという。

また、劣等感が個人に与える影響についての先行研究（武田, 1962; 返田, 1986）において、強い劣等感人は人を不安状態に陥れ、現実には個人が持つ劣性をはるかに超えた障害となりうると述べられてお

り、劣等感を弱めることの重要性がうかがえる。しかし、劣等感がどのようなプロセスを経て精神的健康に影響を与えるかについて、詳細な検討はほとんど見当たらない。そこで、本研究においては、劣等感と精神的健康との具体的な関連を明らかにしていくこととする。

劣等感を生起させる要因として、他者または理想自己と現実自己との比較がある（中村, 2016）が、劣等感の形成要因としてきょうだいを取り上げられている研究はほとんど見当たらない。しかし、きょうだいとは幼いころから多くの時間を共に過ごすことを考えると、きょうだいが劣等感形成に大きな影響を与えると推察される。よって本研究では、劣性を認知する際の比較対象としてきょうだいに焦点を当てて検討する。きょうだいは、遺伝・環境要因のいずれにおいても基本的に類似しており、物理的な

¹ 富山大学人文科学系

² 富山大学人間発達科学部 令和3年度卒業生

近接性も高い（磯崎，2004）。このように、きょうだいは親密さや親愛の情が生起しやすいと予想されるが、その一方で、身近な存在であるがゆえに比較されることが多く、きょうだい以外の他者と比較するとより負の感情を抱きやすい相手である（大和・吉岡，2011）。これらのことから、身近な存在であるきょうだいは比較対象となりやすいこと、きょうだいとの比較はネガティブな感情を引き起こしやすいことが推察されるため、本研究ではきょうだいとの比較による劣性認知に着目することとする。

そして、冒頭で述べた劣性の認知と劣等感および自己重要領域の関連は、きょうだいと自分を比較して劣性を認知する場合にも当てはまらないだろうか。個人の生活または社会的欲求に関しての重要な部分においてきょうだいと自分を比較して劣性を認知した際に、その劣性の認知が劣等感につながると考えられる。加えて、きょうだいと自分を比較することで認知した劣性が劣等感および精神的健康へ至るプロセスにおいて、養育者の存在も何らかの影響を与える可能性は考えられないだろうか。先行研究において、親からの期待に対して苦しみや葛藤を抱いたり、期待に反する行動を選択したりした経験が子の生活満足度を低下させる（春日ら，2014）ことが明らかとなっている。これより、親の評価や期待が子どもに与える影響の大きさがうかがえる。養育者にとっての重要領域において劣性を認知することは、親からの期待に答えられていないという実感や自己否定につながらないだろうか。このことから、きょうだいに対して抱く劣等感には、自己重要領域だけでなく養育者にとっての重要領域も影響を及ぼし、自己重要領域および自分と養育者がともに重視する領域において劣性を認知する場合、劣等感を抱かせるだけでなく精神的健康をも低減させることが推察される。そのため、本研究では養育者にとっての重要領域も考慮に入れて、きょうだいと比較して認知した劣性が劣等感および精神的健康へつながるプロセスについて検討する。

ここで、個人が重要としている自己の領域によって強く感じられる劣等感は異なり（高坂，2008a）、劣性と決めた対象を価値的に高いものと評価しなければ、劣性の認知は劣等感へ至らない（武田，1962）ことが明らかにされている。よって、認知した劣性が自己重要領域と重ならなければ、それは劣等感へつながりにくいと考えられる。そのため、自

己重要領域または自分と養育者にとっての重要領域においてきょうだいと比較して劣性を認知した場合のみ、その劣性認知が劣等感につながると推察される。なお、劣等感は精神的不健康につながりやすい感情である（安部，2016）ことから、自己重要領域または自分と養育者にとっての重要領域において、きょうだいとの比較による劣性認知は劣等感につながるだけでなく、劣等感を媒介し精神的健康にネガティブな影響を与えるのではないかと推察される。

また、子どもが親からの期待に反した行動をとることで苦しみや葛藤を抱いた経験は、子どもの生活満足度を低下させることが示されている（春日ら，2014）。ここで、養育者の重要領域と親の期待の内容は、養育者が子どもにその実現を求めている点で共通しているだろう。そのため、子どもが養育者の重要領域において劣性を認知すると、自身が養育者の期待に答えられていないと感じ、ネガティブな自己イメージを持つようになるのではないかと推察される。さらに、西澤・星野・桂（2015）は、精神的健康を測る指標として生活満足度と抑うつ度を用いており、生活満足度は精神的健康の重要な要素であるといえる。これらのことから、親の期待に反することが子どもの生活満足度に負の影響を与えることに似て、養育者の重要領域においてきょうだいとの比較により劣性を認知した場合、劣性の認知は子どもの精神的健康にネガティブな影響を与える可能性が考えられる。

以上より、本研究では以下2つの仮説を立てて検討していく。

仮説1. きょうだいとの比較により劣性を認知した領域が自己重要領域および養育者と自分にとっての重要領域であった場合、劣性の認知は劣等感を媒介し精神的健康にネガティブな影響を与えるであろう。

仮説2. きょうだいとの比較により劣性を認知した領域が養育者だけの重要領域であった場合、劣性の認知は劣等感を媒介せず精神的健康にネガティブな影響を及ぼすであろう。

なお、倫理的配慮として、本調査において質問紙を配付する際に、調査への協力は自由意思に基づくため、答えないことによる不利益は一切生じないことが確認された。また、きょうだい関係をはじめとした人間関係の捉え方について調べることを目的とした調査であること、アンケートにより得られた

データは匿名のものとして扱われ個人が特定されることはないこと、得られたデータは研究のためにのみ使用し、一定期間保管後、調査者が責任をもって破棄することについて説明が行われた。さらに、質問紙への回答を持って研究への協力に同意したこととみなすことも伝えられた。

きょうだいとの比較による劣性認知が劣等感を媒介して精神的健康に及ぼす影響

目的

きょうだいとの比較により認知した劣性が、劣等感を媒介して精神的健康にどのように影響しているかを調べることを目的とする。なお、高坂（2008a）において、自己重要領域における劣性認知が劣等感へつながると推察されているが、劣性認知と劣等感について、養育者にとっての重要領域を含めた研究はほとんど見当たらない。しかし、親からの期待に対して苦しみや葛藤を抱いたり、期待に反する行動を選択したりした経験は、子の生活満足度を低下させる（春日ら、2014）ことを踏まえると、養育者にとっての重要領域において劣性を認知した場合、認知した劣性は精神的健康を阻害するのではないだろうか。そして、自分と養育者がともに重視する領域において劣性を認知している場合、認知した劣性は劣等感につながるだけでなく、精神的健康にネガティブな影響を与えられまいだろうか。そのため、本研究では、きょうだいとの比較により認知した劣性が、①自己重要領域②養育者にとっての重要領域③自分と養育者にとっての重要領域④自分も養育者も重視しない領域のいずれに当てはまるかを考慮に入れて、劣性の認知が劣等感や精神的健康に与える影響を調べることにする。

方法

【対象者】

大学生 778 名（男性 377 名、女性 396 名、性別不詳 5 名）

【調査時期】

2020 年 10 月～2021 年 10 月

【調査内容】

[1] きょうだいとの比較による劣性の認知について

まず、きょうだいと比較して認知した劣性の内容を

を、①自己重要領域②養育者だけが重視する領域（以下、養育者重要領域と略する）③自分と養育者ともに重視する領域（以下、自己・養育者重要領域と略する）④自分と養育者ともに重視しない領域（以下、自己・養育者非重要領域と略する）に分類して記述するよう求められた。次に、認知した劣性の内容を重視している程度について、「わずかにあてはまる」「少しあてはまる」「だいたいあてはまる」「かなりあてはまる」「非常にあてはまる」の 5 件法で回答が求められた。なお、調査対象者が回答しやすくするために、回答方法に関する例が与えられた。

具体的な教示内容は以下の通りである。

「あなたは、どのような時にきょうだいと比べて劣っていると思いますか。きょうだいと比べて劣っていると思う内容を「①あなただけが重視する内容」～「④あなたと養育者ともに重視しない内容」に分類して四つの（ ）の中にそれぞれ書いてください。ここで言う重視とは、あなた自身またはあなたの養育者が、（ ）に書いた内容に価値を置いている状態のことです。そして、その内容を重視する程度に当てはまる番号を選んで下さい。きょうだい 2 人以上いる場合は、より比較頻度が高い 1 人を想定して回答してください。」

[2] 劣等感について

高坂（2008a）の劣等感項目 50 項目が用いられ、これらの 50 項目の質問に対し 5 件法で回答が求められた。下位尺度は「異性とのつきあいの苦手さ」「学業成績の悪さ」「運動能力の低さ」「家庭水準の低さ」「性格の悪さ」「友達づくりの下手さ」「統率力の欠如」「身体的魅力のなさ」の 8 つからなる。なお、高坂（2008a）による 2 度の因子分析から構造的安定性が確認されている。

[3] 精神的健康について

主観的幸福感尺度（伊藤・相良・池田・川浦、2003）が用いられた。主観的幸福感尺度（伊藤ら、2003）では、12 項目の質問に対し 4 件法で回答が求められた。下位尺度は「人生に対する前向きな気持ち（満足感）」「自信」「達成感」「人生に対する失望感」の 4 つからなる。なお、伊藤ら（2003）により、高い妥当性と信頼性が確認されている。

【分析手続き】

本研究では、きょうだいと比較して劣性を認知した領域（自己重要領域、養育者重要領域、自己・養

育者重要領域, 自己・養育者非重要領域: 以下, 4つのことを劣性認知重要領域パターンと呼ぶ) ごとに分析を行う。各パターンの内訳は以下の通りである。

1. 劣性認知: 自己重要領域
724名 (男性 352名, 女性 368名, 性別不詳 4名)
 2. 劣性認知: 養育者重要領域
529名 (男性 247名, 女性 280名, 性別不詳 2名)
 3. 劣性認知: 自己・養育者重要領域
568名 (男性 270名, 女性 295名, 性別不詳 3名)
 4. 劣性認知: 自己・養育者非重要領域
500名 (男性 226名, 女性 271名, 性別不詳 3名)
- 以上4つのパターンごとに次の分析が行われた。

まず, きょうだいとの比較による劣性の認知得点, 劣等感項目の下位尺度項目合計得点および主観的幸福感尺度の下位尺度項目合計得点を用いて, それぞれの相関関係が求められた。次に, きょうだいと比較して認知した劣性, 劣等感, 精神的健康の関連について, 共分散構造分析による検討が行われた。

結果および考察

(1) 劣性の認知, 劣等感及び主観的幸福感の関連について

劣性の認知, 劣等感及び主観的幸福感の関連について検討を行うため, 劣性認知重要領域パターン(自己重要領域, 養育者重要領域, 自己・養育者重要領域, 自己・養育者非重要領域) ごとに相関関係が求められた。相関関係の分析結果を table1-1 ~ table1-4 に, また, 劣等感項目と主観的幸福感尺度の各項目の平均と標準偏差を table1-5 ~ table1-12 に示す。

①劣等感因子同士の相関関係について

4つの劣性認知重要領域パターン全てにおいて, 劣等感因子同士の相関関係は有意な正の相関関係が示された (全ての相関関係において $p < .01$, table1-1, 2, 3, 4)。

②劣性の認知と劣等感因子との相関関係について

劣性認知重要領域パターンが自己重要領域の場合, 劣性の認知と劣等感因子「家庭水準の低さ」を除く全ての劣等感因子との間に有意な正の相関関係が示された (劣性の認知と劣等感因子「異性とのつきあいの苦手さ」との間における相関関係は $p < .05$, それ以外の相関関係は全て $p < .01$, table1-1)。また, 劣性認知重要領域パターンが自己・養育者重要領域の場合, 劣性の認知と劣等感因子「学

業成績の悪さ」「友達づくりの下手さ」との間に有意な正の相関関係が示された (全ての相関関係において $p < .01$, table1-2)。さらに, 劣性認知重要領域パターンが養育者重要領域と自己・養育者非重要領域の場合では, 劣性の認知と劣等感因子との間に有意な相関関係は示されなかった (table1-3, 4)。

③主観的幸福感因子同士の相関関係について

4つの劣性認知重要領域パターン全てにおいて, 主観的幸福感因子同士の相関関係は有意な正の相関関係が示された (全ての相関関係において $p < .01$, table1-1, 2, 3, 4)。

④劣性の認知, 劣等感因子および主観的幸福感因子との相関関係について

まず, 劣性の認知と主観的幸福感との相関関係についてみていく。

劣性認知重要領域パターンが自己重要領域の場合, 劣性の認知と主観的幸福感因子「自信」「達成感」「人生に対する失望感のなさ」との間に有意な負の相関関係が示された (全ての相関関係において $p < .01$, table1-1)。また, 劣性認知重要領域パターンが自己・養育者非重要領域の場合では, 劣性の認知と主観的幸福感因子「人生に対する前向きな気持ち」「自信」との間に有意な正の相関関係が示された (劣性の認知と主観的幸福感因子「人生に対する前向きな気持ち」との間における相関関係は $p < .05$, 劣性の認知と主観的幸福感因子「自信」との間における相関関係は $p < .01$, table1-4)。しかし, 劣性認知重要領域パターンが養育者重要領域と自己・養育者重要領域の場合には, 劣性の認知と主観的幸福感因子との間に有意な相関関係は示されなかった (table1-2, 3)。次に, 劣等感と主観的幸福感との相関関係についてみていく。4つの劣性認知重要領域パターンにおいて, 全ての相関関係において有意な負の相関がみられた (劣等感因子「家庭水準の低さ」と主観的幸福感因子「自信」との間における相関関係は $p < .05$, それ以外の相関関係は全て $p < .01$, table1-1, 2, 3, 4)。

(2) 劣性の認知が劣等感を媒介し精神的健康に影響を与えるプロセスについて

先に述べた相関関係の結果から, 劣性の認知, 劣等感, 主観的幸福感それぞれの関連が示唆され, その結果を踏まえて共分散構造分析を行った。それより, 劣性認知重要領域パターンごとに以下のプロセスが示された。

きょうだいの比較による劣性認知が劣等感を媒介して精神的健康に及ぼす影響

table1-1 きょうだいの比較による劣性認知、劣等感および主観的幸福感各項目得点の相関関係（自己重要領域において劣性を認知している場合）

		劣性の認知	劣等感							主観的幸福感				
		劣性の認知	異性とのつきあいの苦しさ	学業成績の悪さ	運動能力の低さ	家庭水準の低さ	性格の悪さ	友達づくりの下手さ	統率力の欠如	身体的魅力のなさ	人生に対する前向きな気持ち	自信	達成感	人生に対する失望感のなさ
劣性認知		1.00	.092*	.169**	.098**	.027	.139**	.144**	.161**	.122**	-.006	-.103**	-.111**	-.098**
劣等感	異性とのつきあいの苦しさ		1.00	.334**	.390**	.251**	.392**	.630**	.600**	.470**	-.223**	-.196**	-.156**	-.266**
	学業成績の悪さ			1.00	.467**	.344**	.525**	.519**	.479**	.557**	-.291**	-.343**	-.287**	-.331**
	運動能力の低さ				1.00	.265**	.399**	.482**	.506**	.554**	-.202**	-.262**	-.161**	-.280**
	家庭水準の低さ					1.00	.361**	.303**	.283**	.339**	-.205**	-.084*	-.114**	-.249**
	性格の悪さ						1.00	.588**	.546**	.530**	-.198**	-.312**	-.202**	-.282**
	友達づくりの下手さ							1.00	.688**	.528**	-.315**	-.377**	-.274**	-.418**
	統率力の欠如								1.00	.506**	-.250**	-.416**	-.224**	-.320**
身体的魅力のなさ									1.00	-.182**	-.257**	-.157**	-.246**	
主観的幸福感	人生に対する前向きな気持ち									1.00	.482**	.532**	.595**	
	自信										1.00	.484**	.415**	
	達成感											1.00	.367**	
人生に対する失望感のなさ												1.00		

**p<.01, *p<.05

table1-2 きょうだいの比較による劣性認知、劣等感および主観的幸福感各項目得点の相関関係（自己・養育者重要領域において劣性を認知している場合）

		劣性の認知	劣等感							主観的幸福感				
		劣性の認知	異性とのつきあいの苦しさ	学業成績の悪さ	運動能力の低さ	家庭水準の低さ	性格の悪さ	友達づくりの下手さ	統率力の欠如	身体的魅力のなさ	人生に対する前向きな気持ち	自信	達成感	人生に対する失望感のなさ
劣性認知		1.00	.068	.117**	.065	-.043	.07	.143**	.077	.053	-.04	-.037	-.056	-.06
劣等感	異性とのつきあいの苦しさ		1.00	.344**	.386**	.275**	.395**	.640**	.575**	.470**	-.240**	-.191**	-.178**	-.290**
	学業成績の悪さ			1.00	.501**	.347**	.527**	.543**	.520**	.597**	-.302**	-.337**	-.311**	-.338**
	運動能力の低さ				1.00	.268**	.404**	.491**	.534**	.552**	-.242**	-.281**	-.190**	-.302**
	家庭水準の低さ					1.00	.333**	.296**	.281**	.368**	-.243**	-.098*	-.148**	-.281**
	性格の悪さ						1.00	.590**	.530**	.526**	-.231**	-.319**	-.244**	-.311**
	友達づくりの下手さ							1.00	.685**	.540**	-.369**	-.394**	-.311**	-.441**
	統率力の欠如								1.00	.516**	-.260**	-.424**	-.262**	-.346**
身体的魅力のなさ									1.00	-.204**	-.238**	-.160**	-.289**	
主観的幸福感	人生に対する前向きな気持ち									1.00	.490**	.528**	.620**	
	自信										1.00	.528**	.427**	
	達成感											1.00	.382**	
人生に対する失望感のなさ												1.00		

**p<.01, *p<.05

table1-3 きょうだいの比較による劣性認知、劣等感および主観的幸福感各項目得点の相関関係（養育者重要領域において劣性を認知している場合）

		劣性の認知	劣等感							精神的健康				
		劣性の認知	異性とのつきあいの苦しさ	学業成績の悪さ	運動能力の低さ	家庭水準の低さ	性格の悪さ	友達づくりの下手さ	統率力の欠如	身体的魅力のなさ	人生に対する前向きな気持ち	自信	達成感	人生に対する失望感のなさ
劣性認知		1.00	.019	.047	.025	.022	.055	.037	.006	-.029	.035	.065	.017	-.044
劣等感	異性とのつきあいの苦しさ		1.00	.332**	.391**	.270**	.376**	.616**	.578**	.443**	-.234**	-.204**	-.194**	-.292**
	学業成績の悪さ			1.00	.487**	.332**	.542**	.541**	.507**	.583**	-.298**	-.363**	-.327**	-.368**
	運動能力の低さ				1.00	.241**	.413**	.486**	.536**	.540**	-.229**	-.278**	-.187**	-.308**
	家庭水準の低さ					1.00	.354**	.318**	.273**	.357**	-.252**	-.100*	-.161**	-.289**
	性格の悪さ						1.00	.590**	.519**	.520**	-.234**	-.313**	-.228**	-.331**
	友達づくりの下手さ							1.00	.695**	.534**	-.352**	-.395**	-.314**	-.455**
	統率力の欠如								1.00	.510**	-.251**	-.417**	-.245**	-.343**
身体的魅力のなさ									1.00	-.197**	-.250**	-.149**	-.294**	
主観的幸福感	人生に対する前向きな気持ち									1.00	.474**	.525**	.581**	
	自信										1.00	.501**	.428**	
	達成感											1.00	.401**	
人生に対する失望感のなさ												1.00		

**p<.01, *p<.05

table1-4 きょうだいの比較による劣性認知、劣等感および主観的幸福感各項目得点の相関関係（自己・養育者非重要領域において劣性を認知している場合）

		劣性の認知	劣等感							主観的幸福感				
		劣性の認知	異性とのつきあいの苦しさ	学業成績の悪さ	運動能力の低さ	家庭水準の低さ	性格の悪さ	友達づくりの下手さ	統率力の欠如	身体的魅力のなさ	人生に対する前向きな気持ち	自信	達成感	人生に対する失望感のなさ
劣性認知		1.00	-.086	.016	-.063	.072	.013	-.08	-.074	-.023	.092*	.122**	.068	.021
劣等感	異性とのつきあいの苦しさ		1.00	.361**	.376**	.388**	.388**	.611**	.581**	.462**	-.233**	-.192**	-.205**	-.285**
	学業成績の悪さ			1.00	.482**	.360**	.550**	.549**	.538**	.608**	-.310**	-.360**	-.355**	-.361**
	運動能力の低さ				1.00	.228**	.383**	.463**	.505**	.535**	-.278**	-.278**	-.203**	-.269**
	家庭水準の低さ					1.00	.357**	.288**	.309**	.357**	-.262**	-.109*	-.183**	-.313**
	性格の悪さ						1.00	.596**	.537**	.525**	-.251**	-.316**	-.279**	-.335**
	友達づくりの下手さ							1.00	.681**	.532**	-.331**	-.380**	-.327**	-.450**
	統率力の欠如								1.00	.521**	-.241**	-.415**	-.243**	-.334**
身体的魅力のなさ									1.00	-.202**	-.274**	-.194**	-.278**	
主観的幸福感	人生に対する前向きな気持ち									1.00	.492**	.551**	.592**	
	自信										1.00	.497**	.419**	
	達成感											1.00	.405**	
人生に対する失望感のなさ												1		

**p<.01, *p<.05

table1-5 劣等感項目の項目内容（自己重要領域において劣性を認知している場合）

No	項目内容	平均	SD
F1：異性とのつきあいの苦しさ			
37	異性にうまく声をかけられない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.72	1.28
45	異性と仲良くなれない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.64	1.27
34	異性とのつきあいが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.78	1.29
9	異性と話すのが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.92	1.29
21	異性の前で緊張してしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.69	1.26
25	異性と親密な関係をつくれな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.72	1.33
F2：学業成績の悪さ			
29	頭がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.87	1.31
17	成績が悪い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.82	1.29
49	学力が低い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.67	1.31
41	成績が伸びない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.64	1.28
5	勉強ができない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.07	1.22
44	試験の結果がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.79	1.31
F3：運動能力の低さ			
38	運動オンチな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.54	1.35
16	運動神経が鈍い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.70	1.37
48	運動がなかなかうまくならない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.51	1.30
1	スポーツが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.95	1.34
28	体力がない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.63	1.34
4	走るのが遅い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.69	1.32
F4：家庭水準の低さ			
47	親が立派でない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.58	0.87
31	親の学歴がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.56	0.86
43	家があまり裕福でない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.81	1.06
19	家庭環境がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.75	1.01
12	親の仕事を自慢できない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.62	0.90
7	家柄がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.87	1.08
40	身長が低すぎる（高すぎる）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.26	1.26
F5：性格の悪さ			
15	悪口を言ってしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.54	1.27
24	いじわるな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.28	1.20
10	人のせいになってしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.77	1.24
18	人を思いやることができない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.43	1.22
27	うそをついてしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.54	1.23
33	短気な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.43	1.22
6	わがままな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.57	1.22
F6：友達づくりの下手さ			
35	友達グループにうまく入れない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.89	1.30
23	友達づきあいが下手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.89	1.32
39	うまく友人と話せない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.62	1.27
11	うまく人間関係をつくれな自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.19	1.33
42	仲のよい友人が作れない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.49	1.28
14	友人が少ない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.61	1.29
F7：統率力の欠如			
8	人に指示が出せない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.71	1.25
46	リーダーシップがない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.82	1.29
50	グループをまとめられない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.71	1.28
3	消極的な自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.42	1.27
26	自分の意見がはっきり言えない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.10	1.34
22	決断力がない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.14	1.30
F8：身体的魅力のなさ			
13	スタイルがよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.04	1.34
2	かっこよくない（かわいくない）自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.47	1.21
20	顔が丸い（細い）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.56	1.34
30	太っている（やせている）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.74	1.40
32	足が短い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.46	1.35
36	体つきが男（女）らしくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.35	1.24

きょうだいとの比較による劣性認知が劣等感を媒介して精神的健康に及ぼす影響

table1-6 劣等感項目の項目内容（養育者重要領域において劣性を認知している場合）

No	項目内容	平均	SD
F1：異性とのつきあいの苦しさ			
37	異性にうまく声をかけられない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.73	1.29
45	異性と仲良くなれない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.65	1.27
34	異性とのつきあいが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.75	1.28
9	異性と話すのが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.92	1.28
21	異性の前で緊張してしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.71	1.26
25	異性と親密な関係をつくれな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.74	1.31
F2：学業成績の悪さ			
29	頭がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.92	1.33
17	成績が悪い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.86	1.31
49	学力が低い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.72	1.34
41	成績が伸びない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.69	1.30
5	勉強ができない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.11	1.22
44	試験の結果がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.87	1.34
F3：運動能力の低さ			
38	運動オンチな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.57	1.38
16	運動神経が鈍い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.70	1.40
48	運動がなかなかうまくならない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.54	1.34
1	スポーツが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.93	1.36
28	体力がない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.67	1.37
4	走るのが遅い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.67	1.32
F4：家庭水準の低さ			
47	親が立派でない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.60	0.88
31	親の学歴がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.59	0.88
43	家があまり裕福でない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.90	1.13
19	家庭環境がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.80	1.05
12	親の仕事を自慢できない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.67	0.91
7	家柄がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.95	1.13
40	身長が低すぎる（高すぎる）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.26	1.28
F5：性格の悪さ			
15	悪口を言ってしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.58	1.28
24	いじわるな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.34	1.23
10	人のせいにしてしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.73	1.25
18	人を思いやることができない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.50	1.25
27	うそをついてしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.56	1.22
33	短気な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.44	1.25
6	わがままな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.57	1.21
F6：友達づくりの下手さ			
35	友達グループにうまく入れない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.93	1.31
23	友達づきあいが下手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.95	1.32
39	うまく友人と話せない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.68	1.29
11	うまく人間関係をつくれな自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.20	1.33
42	仲のよい友人が作れない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.54	1.32
14	友人が少ない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.68	1.30
F7：統率力の欠如			
8	人に指示が出せない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.75	1.24
46	リーダーシップがない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.85	1.29
50	グループをまとめられない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.77	1.28
3	消極的な自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.43	1.27
26	自分の意見がはっきり言えない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.14	1.34
22	決断力がない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.14	1.30
F8：身体的魅力のなさ			
13	スタイルがよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.06	1.36
2	かっこよくない（かわいくない）自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.47	1.21
20	顔が丸い（細い）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.58	1.35
30	太っている（やせている）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.74	1.41
32	足が短い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.53	1.39
36	体つきが男（女）らしくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.35	1.24

table1-7 劣等感項目の項目内容（自己・養育者重要領域において劣性を認知している場合）

No	項目内容	平均	SD
F1：異性とのつきあいの苦手さ			
37	異性にうまく声をかけられない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.78	1.29
45	異性と仲良くなれない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.66	1.27
34	異性とのつきあいが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.79	1.29
9	異性と話すのが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.97	1.29
21	異性の前で緊張してしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.77	1.26
25	異性と親密な関係をつくれないう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.76	1.31
F2：学業成績の悪さ			
29	頭がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.88	1.32
17	成績が悪い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.82	1.29
49	学力が低い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.67	1.32
41	成績が伸びない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.68	1.28
5	勉強ができない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.09	1.22
44	試験の結果がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.84	1.31
F3：運動能力の低さ			
38	運動オンチな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.57	1.38
16	運動神経が鈍い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.70	1.40
48	運動がなかなかうまくならない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.53	1.34
1	スポーツが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.91	1.36
28	体力がない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.67	1.35
4	走るのが遅い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.67	1.33
F4：家庭水準の低さ			
47	親が立派でない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.59	0.89
31	親の学歴がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.56	0.87
43	家があまり裕福でない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.85	1.09
19	家庭環境がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.78	1.04
12	親の仕事を自慢できない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.63	0.90
7	家柄がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.89	1.09
40	身長が低すぎる（高すぎる）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.23	1.26
F5：性格の悪さ			
15	悪口を言ってしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.55	1.26
24	いじわるな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.34	1.21
10	人のせいにしてしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.76	1.23
18	人を思いやることができない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.47	1.25
27	うそをついてしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.57	1.23
33	短気な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.45	1.23
6	わがままな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.60	1.23
F6：友達づくりの下手さ			
35	友達グループにうまく入れない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.96	1.30
23	友達づきあいが下手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.98	1.31
39	うまく友人と話せない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.71	1.28
11	うまく人間関係をつくれないう自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.22	1.33
42	仲のよい友人が作れない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.57	1.31
14	友人が少ない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.67	1.30
F7：統率力の欠如			
8	人に指示が出せない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.76	1.24
46	リーダーシップがない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.88	1.30
50	グループをまとめられない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.78	1.29
3	消極的な自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.46	1.27
26	自分の意見がはっきり言えない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.14	1.33
22	決断力がない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.18	1.29
F8：身体的魅力のなさ			
13	スタイルがよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.02	1.36
2	かっこよくない（かわいくない）自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.45	1.22
20	顔が丸い（細い）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.55	1.35
30	太っている（やせている）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.70	1.41
32	足が短い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.47	1.36
36	体つきが男（女）らしくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.36	1.24

きょうだいとの比較による劣性認知が劣等感を媒介して精神的健康に及ぼす影響

table1-8 劣等感項目の項目内容（自己・養育者非重要領域において劣性を認知している場合）

No	項目内容	平均	SD
F1：異性とのつきあいの苦しさ			
37	異性にうまく声をかけられない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.73	1.27
45	異性と仲良くなれない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.64	1.26
34	異性とのつきあいが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.75	1.27
9	異性と話すのが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.91	1.27
21	異性の前で緊張してしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.70	1.26
25	異性と親密な関係をつくれな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.73	1.30
F2：学業成績の悪さ			
29	頭がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.90	1.33
17	成績が悪い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.82	1.30
49	学力が低い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.66	1.33
41	成績が伸びない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.66	1.28
5	勉強ができない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.06	1.23
44	試験の結果がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.83	1.31
F3：運動能力の低さ			
38	運動オンチな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.63	1.38
16	運動神経が鈍い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.77	1.40
48	運動がなかなかうまくならない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.56	1.32
1	スポーツが苦手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.93	1.37
28	体力がない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.70	1.34
4	走るのが遅い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.69	1.33
F4：家庭水準の低さ			
47	親が立派でない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.58	0.88
31	親の学歴がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.56	0.87
43	家があまり裕福でない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.86	1.11
19	家庭環境がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.77	1.03
12	親の仕事を自慢できない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.65	0.91
7	家柄がよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	1.91	1.11
40	身長が低すぎる（高すぎる）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.24	1.25
F5：性格の悪さ			
15	悪口を言ってしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.56	1.29
24	いじわるな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.32	1.23
10	人のせいにしてしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.71	1.24
18	人を思いやることができない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.46	1.23
27	うそをついてしまう自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.53	1.21
33	短気な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.46	1.23
6	わがままな自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.57	1.21
F6：友達づくりの下手さ			
35	友達グループにうまく入れない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.92	1.29
23	友達づきあいが下手な自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.96	1.30
39	うまく友人と話せない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.71	1.29
11	うまく人間関係をつくれな自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.20	1.32
42	仲のよい友人が作れない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.54	1.31
14	友人が少ない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.65	1.28
F7：統率力の欠如			
8	人に指示が出せない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.73	1.25
46	リーダーシップがない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.83	1.28
50	グループをまとめられない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.73	1.27
3	消極的な自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.41	1.26
26	自分の意見がはっきり言えない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.11	1.33
22	決断力がない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.12	1.31
F8：身体的魅力のなさ			
13	スタイルがよくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.05	1.36
2	かっこよくない（かわいくない）自分が人とくらべて劣っていると感じる	3.47	1.23
20	顔が丸い（細い）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.59	1.35
30	太っている（やせている）自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.76	1.41
32	足が短い自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.55	1.39
36	体つきが男（女）らしくない自分が人とくらべて劣っていると感じる	2.35	1.24

table1-9 主観的幸福感尺度の項目内容（自己重要領域において劣性を認知している場合）

No	項目内容	平均	SD
F1：人生に対する前向きな気持ち（満足感）			
1	あなたは人生が面白いと思いますか	3.08	0.68
2	過去と比較して、現在の生活は	3.04	0.66
3	ここ数年やってきたことを全体的に見て、あなたはどの程度幸せを感じていますか	3.08	0.68
F2：自信			
4	ものごとが思ったように進まない場合でも、あなたはその状況に適切に対処できると思いますか	3.03	0.68
5	危機的な状況（人生を狂わせるようなこと）に出会ったとき、自分が勇気をもってそれに立ち向かって解決していけるという自信がありますか	2.57	0.79
6	今の調子でやっていけば、これから起こることにも対応できる自信がありますか	2.63	0.72
F3：達成感			
7	期待通りの生活水準や社会的地位を手に入れたと思いますか	2.82	0.78
8	これまでどの程度成功したり出世したと感じていますか	2.65	0.72
9	自分がやろうとしたことはやりとげていますか	2.86	0.69
F4：人生に対する失望感のなさ			
10*	自分の人生は退屈だとか面白くないと感じていますか	2.33	0.80
11*	将来のことが心配ですか	3.20	0.72
12*	自分の人生には意味がないと感じていますか	2.05	0.86

* 逆転項目

table1-10 主観的幸福感尺度の項目内容（養育者重要領域において劣性を認知している場合）

No	項目内容	平均	SD
F1：人生に対する前向きな気持ち（満足感）			
1	あなたは人生が面白いと思いますか	3.08	0.68
2	過去と比較して、現在の生活は	3.03	0.65
3	ここ数年やってきたことを全体的に見て、あなたはどの程度幸せを感じていますか	3.05	0.66
F2：自信			
4	ものごとが思ったように進まない場合でも、あなたはその状況に適切に対処できると思いますか	3.02	0.67
5	危機的な状況（人生を狂わせるようなこと）に出会ったとき、自分が勇気をもってそれに立ち向かって解決していけるという自信がありますか	2.53	0.79
6	今の調子でやっていけば、これから起こることにも対応できる自信がありますか	2.59	0.75
F3：達成感			
7	期待通りの生活水準や社会的地位を手に入れたと思いますか	2.83	0.79
8	これまでどの程度成功したり出世したと感じていますか	2.65	0.71
9	自分がやろうとしたことはやりとげていますか	2.87	0.70
F4：人生に対する失望感のなさ			
10*	自分の人生は退屈だとか面白くないと感じていますか	2.33	0.81
11*	将来のことが心配ですか	3.21	0.72
12*	自分の人生には意味がないと感じていますか	2.06	0.87

* 逆転項目

table1-11 主観的幸福感尺度の項目内容（自己・養育者重要領域において劣性を認知している場合）

No	項目内容	平均	SD
F1：人生に対する前向きな気持ち（満足感）			
1	あなたは人生が面白いと思いますか	3.08	0.69
2	過去と比較して、現在の生活は	3.05	0.65
3	ここ数年やってきたことを全体的に見て、あなたはどの程度幸せを感じていますか	3.07	0.67
F2：自信			
4	ものごとが思ったように進まない場合でも、あなたはその状況に適切に対処できると思いますか	3.02	0.68
5	危機的な状況（人生を狂わせるようなこと）に出会ったとき、自分が勇気をもってそれに立ち向かって解決していけるという自信がありますか	2.53	0.79
6	今の調子でやっていけば、これから起こることにも対応できる自信がありますか	2.61	0.74
F3：達成感			
7	期待通りの生活水準や社会的地位を手に入れたと思いますか	2.84	0.80
8	これまでどの程度成功したり出世したと感じていますか	2.65	0.72
9	自分がやろうとしたことはやりとげていますか	2.86	0.69
F4：人生に対する失望感のなさ			
10*	自分の人生は退屈だとか面白くないと感じていますか	2.32	0.83
11*	将来のことが心配ですか	3.22	0.71
12*	自分の人生には意味がないと感じていますか	2.04	0.88

* 逆転項目

table1-12 主観的幸福感尺度の項目内容（自己・養育者非重要領域において劣性を認知している場合）

No	項目内容	平均	SD
F1：人生に対する前向きな気持ち（満足感）			
1	あなたは人生が面白いと思いますか	3.10	0.68
2	過去と比較して、現在の生活は	3.06	0.65
3	ここ数年やってきたことを全体的に見て、あなたはどの程度幸せを感じていますか	3.08	0.66
F2：自信			
4	ものごとが思ったように進まない場合でも、あなたはその状況に適切に対処できると思いますか	3.03	0.66
5	危機的な状況（人生を狂わせるようなこと）に出会ったとき、自分が勇気をもってそれに立ち向かって解決していけるという自信がありますか	2.55	0.79
6	今の調子でやっていけば、これから起こることにも対応できる自信がありますか	2.62	0.74
F3：達成感			
7	期待通りの生活水準や社会的地位を手に入れたと思いますか	2.84	0.76
8	これまでどの程度成功したり出世したと感じていますか	2.69	0.71
9	自分がやろうとしたことはやりとげていますか	2.89	0.68
F4：人生に対する失望感のなさ			
10*	自分の人生は退屈だとか面白くないと感じていますか	2.32	0.81
11*	将来のことが心配ですか	3.20	0.71
12*	自分の人生には意味がないと感じていますか	2.03	0.87

* 逆転項目

プロセス1

「劣性認知」→「劣等感」→「主観的幸福感」

劣等感を媒介した劣性の認知が主観的幸福感に至るプロセスについて、以下の2つのものが見出された。

①「劣性の認知：自己重要領域」→「友達づくりの下手さ」→「自信」「失望感のなさ」(Figure1)

(適合度：GFI=.976, AGFI=.959, RMSEA=.047)

②「劣性の認知：自己・養育者重要領域」→「友達づくりの下手さ」→「失望感のなさ」(Figure2)

(適合度：GFI=.989, AGFI=.960, RMSEA=.051)

自己重要領域および自己・養育者重要領域においてきょうだいと比較して劣性を認知した場合、劣性認知は劣等感「友達づくりの下手さ」に正の影響を与え、「友達づくりの下手さ」は主観的幸福感「失望感のなさ」に負の影響を与えることが示された。また、自己重要領域においてきょうだいとの比較により劣性を認知した場合、「友達づくりの下手さ」が「自信」にも負の影響を与えた。このことから、大学生では、自分で自分自身を認める助けとなる友達を上手くつくれないことに劣等感を抱きやすい(高坂, 2008a) ことより、なんらかの劣性を認知することが「友達づくりの下手さ」という劣等感につながったと考えられる。また、河越・岡田(2015)では、高校までの学校生活において友人から認められると、大学生時代の自己肯定感が高まるといわれている。その一方で、学校生活において周囲から認められる経験が少ないと自己肯定感を適度に高めにくいことから、自分自身を認める助けとなる友達をつくることに対して劣等感を抱くと、自信を無くしたり失望感を持ったりすることにつながるのではないか。

プロセス2 「劣等感」→「主観的幸福感」

劣等感が主観的幸福感に至るプロセスについて、以下の2つのものが見出された。

①養育者重要領域において劣性を認知している場合：「学業成績の悪さ」→「達成感」(Figure3)

(適合度：GFI=.995, AGFI=.984, RMSEA=.020)

②自己・養育者非重要領域において劣性を認知している場合：「友達づくりの下手さ」→「失望感のなさ」(Figure4)

(適合度：GFI=.983, AGFI=.959, RMSEA=.052)

養育者重要領域において劣性を認知している場合、劣等感「学業成績の悪さ」が主観的幸福感「達

成感」に負の影響を与えることが示された。また、自己・養育者非重要領域において劣性を認知している場合、劣等感「友達づくりの下手さ」が主観的幸福感「失望感のなさ」に負の影響を与えることが示された。春日ら(2014)によると、人間性に関する親から子への期待は社会的に要請されることであると指摘されている。すなわち、親が子に対して「道徳的な人であってほしい」「正直であってほしい」と期待することは、社会におけるニーズと合致し、そのような期待を子はポジティブに受け止めやすいことから、精神的健康にネガティブな影響を与えにくかったと考えられる。本研究においても、養育者重要領域において劣性を認知している、すなわち養育者の期待を認知しているにもかかわらず、きょうだいとの比較による劣性の認知が精神的健康に与える影響は確認されなかった。今回、認知した劣性の内容について詳細な検討は行わなかったが、養育者重要領域において、きょうだいとの比較により認知した劣性が精神的健康へ影響を与えなかったのは、認知した劣性の内容を克服することが社会的に要請されるものであり、子はそれらと折り合いをつけやすかった可能性が推察され、本研究の結果はこのことによるものと解釈される。

総合考察

本研究では、きょうだいと比較して認知した劣性→劣等感→精神的健康について検討を行った。

なお、その際に、認知した劣性が自己および養育者の重要領域であるか否かを考慮に入れた。きょうだいと比較して認知する劣性が精神的健康に影響を及ぼすプロセスについて、自己重要領域および自己と養育者にとっての重要領域における劣性認知が、友達づくりの下手さに関する劣等感を媒介して精神的健康を低減させることが示された(Figure1, 2)。大学生では、自己肯定を促進させてくれるような友達を上手くつくれないことに劣等感を抱きやすい(高坂, 2008a)。本研究では、認知した劣性の内容についての検討は行われなかったが、大学生が友人関係に関する劣等感を抱きやすいこと(高坂, 2008a)を踏まえると、なんらかの劣性を認知することが友達づくりの下手さに関する劣等感につながったと推察されないだろうか。また、学校生活において周りから認められるような経験が少ないと自己肯定感を適度に高めにくいと考えられる(河

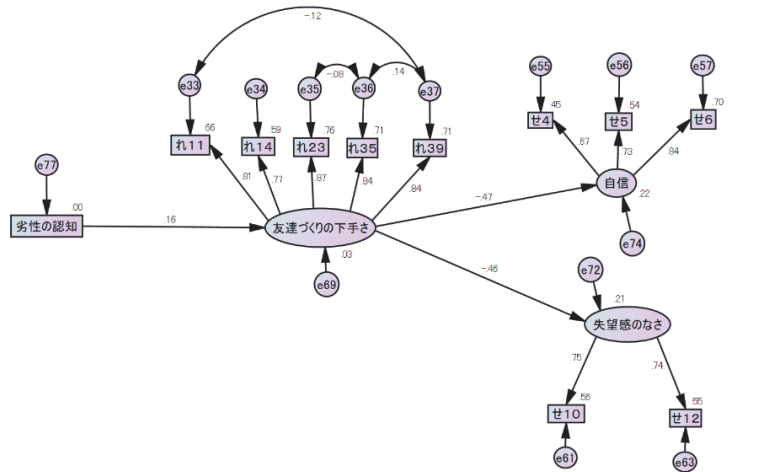


Figure 1. 「劣性の認知：自己重要領域」→「友達づくりの下手さ」→「自信」「失望感のなさ」
※いずれのパスも有意な結果が得られている。(p<.001)

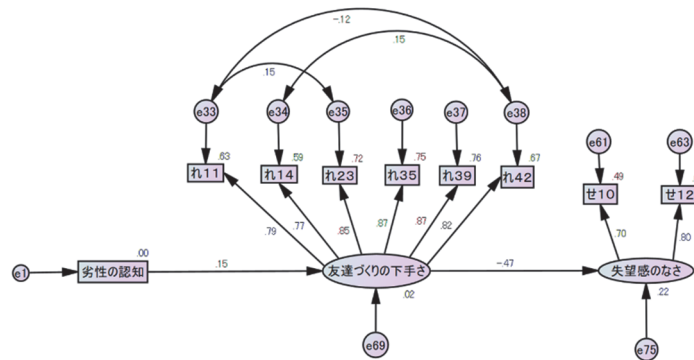


Figure 2. 「劣性の認知：自己・養育者重要領域」→「友達づくりの下手さ」→「失望感のなさ」
※いずれのパスも有意な結果が得られている。(p<.001)

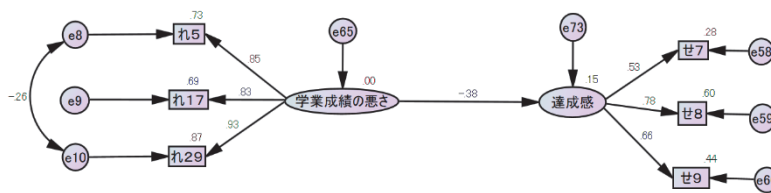


Figure 3. 「学業成績の悪さ」→「達成感」(劣性認知：養育者重要領域)
※いずれのパスも有意な結果が得られている。(p<.001)

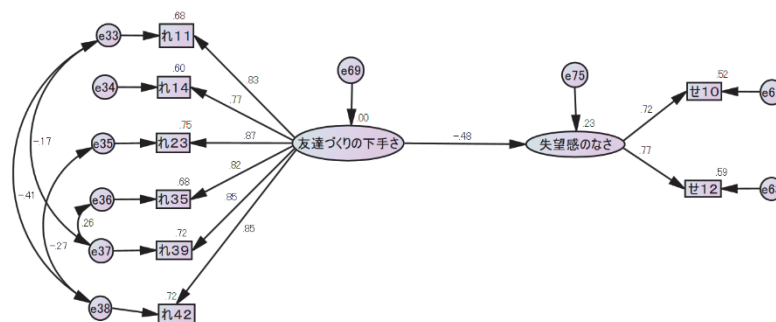


Figure 4. 「友達づくりの下手さ」→「失望感のなさ」(劣性認知：自己・養育者非重要領域)
※いずれのパスも有意な結果が得られている。(p<.001)

越・岡田, 2015) ことから, 友達をつくることに対して劣等感を抱くと, 自信を無くしたり失望感を持ったりすることにつながるのではないか。よって仮説1は支持された。ここで, 養育者重要領域において劣性を認知している場合には, 学業成績に関しての劣等感が達成感を低減させることが確認されたが, きょうだいと自分を比較して認知した劣性から劣等感および精神的健康への影響は見られなかった (Figure3)。よって, 仮説2は支持されなかった。これについて, 春日ら (2014) により, 人間性に関する親からの期待は社会的に要請されることであると指摘されており, そのような期待を子はポジティブに受け止めやすいことから, 精神的健康にネガティブな影響を与えにくかったと考えられる。今後, 養育者の重要領域における劣性認知の内容について詳細な検討を行うことで, きょうだいと比較して認知した劣性が精神的健康に影響を与えるプロセスを明らかにできると推察される。

今後の課題

本研究では, きょうだいと比較して劣性を認知することが劣等感や精神的健康にどのように影響を与えるかが確認された。しかし, 以下のようなことが課題として挙げられる。

まず, きょうだいの組み合わせや年齢差などを考慮に入れていないことである。磯崎 (2004) によると, きょうだい間における葛藤や軋轢の生起には互いの関与度が関係しており, きょうだいの組み合わせ (兄弟, 姉妹, 兄妹, 姉弟) は重要ではないと推察された。しかし, きょうだいと比較して認知した劣性が個人に及ぼす影響を考える時, きょうだい構成や年齢差も関連してくるであろう。今後, このようなきょうだい関係の質的側面を考慮に入れて検討を行うことで, きょうだいと比較して認知した劣性と, 劣等感や精神的健康との関連についてより深い示唆が得られるのではないか。

また, 本研究ではきょうだいと比較して認知した劣性の内容を考慮に入れた検討は行っていない。今後, 認知した劣性の内容も考慮に入れたうえで, それらがどのような劣等感につながりやすいか, また, 精神的健康とどのような関連が見られるのかについて検討することで, きょうだいと比較して認知した劣性→劣等感→精神的健康のプロセスについてより深い示唆が得られるであろう。

謝辞

本研究を進めるにあたり, 質問紙調査の実施を快くご了承くださいました先生方, 調査にご協力くださいました学生の皆様に, 厚く御礼申し上げます。

文献

- 安部芽衣 (2016). 青年期の劣等感と内省への取り組み方および未来展望との関連性, 九州大学心理学研究, 17, 69-76.
- 赤木真弓 (2018). 母娘関係が娘のアイデンティティ形成と精神的健康に与える影響: 母娘関係尺度の作成を通して, 発達心理学研究, 29, 3, 114-124.
- 早川孝子・依田明 (1983). ふたりきょうだいにおけるきょうだい関係, 横浜国立大学教育紀要, 23, 81-91.
- 飯野晴美 (1994). きょうだい関係スケール 明治学院論叢, 541, 89-109.
- 磯崎三喜年 (2004). きょうだい関係における葛藤の解消と自己評価維持, 国際基督教大学学報, I-A, 教育研究, 46, 65-75.
- 伊藤裕子ら (2003). 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討, 心理学研究, 74, 3, p276-281.
- 春日秀朗・宇都宮博・サトウタツヤ (2014). 親の期待認知が大学生の自己抑制型行動特性および生活満足感へ与える影響: 期待に反する反応様式に注目して, 発達心理学研究, 25, 2, 121-132.
- 河越麻佑・岡田みゆき (2015). 大学生の自己肯定感に及ぼす影響要因, 日本家政学会誌, 66, 5, 222-233.
- 川合綾香 (2014). 青年期における現実自己が抱く劣等感について: 理想自己との比較・他者比較の観点から, 龍谷大学大学院文学研究科紀要, 36, 147-162.
- 高坂康雅 (2008a). 自己の重要領域からみた青年期における劣等感の発達の変化, 教育心理学研究, 56, 2, 218-229.
- 高坂康雅 (2008b). 青年期における容姿・容貌に対する劣性を認知したときに生じる感情の発達の変化, 青年心理学研究, 20, 41-53.
- 中村純子 (2016). 理想自己と現実自己の差異と自己注目が劣等感に与える影響, 人間生活文化研究, 26, 168-172.
- 西澤美香・星野明子・桂敏樹 (2015). 農山村地域

- に居住する壮年期者のコミュニティ意識と健康との関連, 日本農村医学会雑誌, 63, 5, 734-746.
- 柴田康順 (2015). 青年のきょうだい関係とアイデンティティの関連－質問紙法, 面接法を用いた検討－, 大正大学大学院研究論集, 39, 39-52.
- 返田健 (1986). やさしい心理学 青年期の心理教育出版川合綾香 (2014). 青年期における現実自己が抱く劣等感について：理想自己との比較・他者比較の観点から, 龍谷大学大学院文学研究科紀要, 36, 147-162.
- 武田 徹 (1962). 不適応現象：劣等感の側面 中京大学論叢 教養篇, 2, 65-85, 1-15.
- 丹野義彦ら (2018). 臨床心理学 有斐閣.
- 大和美季子・吉岡和子 (2011). きょうだいに対する劣等感と養育態度の認知との関連, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 20, 1, 61-69.
- 依田明・清水弘司(1980). 現代のエスプリ 159 きょうだい 至文堂.
- 吉田俊和 「きょうだい関係」第4章『家族関係と子ども』(松田惺, 金子書房, 1991) pp107-136.

付記

本論文は第二著者の卒業論文の結果の一部を第二著者と第一著者が再整理し, 新たな観点から解釈・考察を行い, まとめたものである。なお調査実施の計画, データの入力・分析は第一著者の指導の下第二著者により行われた。

受付年月日 (2022/5/19)

受理年月日 (2022/7/21)